

令和7年度第3回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和7年12月18日（水）午前8時30分から11時30分まで
- 2 会 場 浜松商業高等学校 応接室
- 3 出席者 （委員）岡本 雅康 氏、佐原 司郎 氏、松山 佳典 氏、鈴木 和之 氏
渡瀬 吉朗 氏、倉本 哲男 氏
（学校）井口 裕史 校長、袴田 康行 副校長、米本 敦 教頭、
後藤 一弘 事務長、寺田 久美子 教諭

4 報告・協議内容【発言要旨】＜ ＞は発言者

(1) 最近の本校状況＜井口校長＞

- ・ インフルエンザの流行している。これから実施される学校行事もあり、健康管理に注意喚起している。
- ・ 3年生の進路の状況は、順調。
- ・ 朝の通学時に正門前等に交通指導員を配置している。今年度、3人体制まで整備できた。

(2) 課題研究発表会見学

（生徒発表の概要）

- ① 日経ストックリーグの成果発表
- ② ファストファッションの未来（各ブランドの展望分析）
- ③ 恋愛心理学（顔重視 or 性格重視）
- ④ 情報の伝え方（ダンスで表現）
- ⑤ 観光マーケティング（浜松市の観光課題）
- ⑥ マネジメント戦略で身につく力（タクシーレース）
- ⑦ 実業を導くインテリジェンス（ビジネスとは知的な価値交換ゲーム）
- ⑧ AIと睡眠（AIを活用した睡眠アプリの提案）
- ⑨ プログラミング研究（アワーオブコード）
- ⑩ 日商簿記2級の取得に向けて（合格体験談）
- ⑪ 人材マネジメントで学んだこと（中学生への模擬授業体験、企業のイノベーションプラン）
- ⑫ ビジネス検定で広がるキャリアの可能性（販売士検定、秘書検定）

(3) 各委員からの意見等

<委員>

- ・恋愛心理学と就職、観光マーケティング（イルミネーションや回遊性）、タクシー不足（柔軟性と責任）、AIと衣服（ARでの検証）、プログラミング（スター・ウォーズを題材）など、多岐にわたるテーマの設定がそれぞれ面白い。
- ・ストックデータやファストファッションの分析において、GAP分析、SWOT分析、4P分析といった専門的なフレームワークが駆使されている。
- ・問い（Research Question）を立て、理論・実践・実証の3部で構成される「アクション・リサーチ」が成立しており、それぞれの発表に独自のスタイルがあり高く評価できる。
- ・「浜商のレベルの高さ」を実感し、大学教授として頑張らなければならないと刺激を受けた。

<委員>

- ・各々授業で学んだ中で、特に興味を持ったことをテーマにして深掘りして自分達なりの結論を導き出していた。
- ・短時間での発表ながら、それを楽しみながら発表している本当に素晴らしい生徒達だと感動した。
- ・学びは一生もので、このスキルと学びの楽しさを大切にして成長していてもらいたい。

<委員>

- ・3年生の発表を全校生徒が見学することは、下級生にとってよい刺激であり、次年度以降に向けたイメージづくりの機会になると感じた。
- ・各企業の株価の動きや投資についての研究発表を見て驚いた。生徒にとって、とてもよい刺激になったはず。
- ・「顔か性格か」といった興味深いテーマや、地元の魅力を季節に合わせたプランで紹介するなどユニークな視点での研究は評価できる。
- ・「AIと睡眠」で自分の睡眠データをチェックする試みや、日商簿記検定の具体的な紹介など、実生活や進路に役立つ内容が多いと感心した。
- ・原稿を読むのではなく、画像やプレゼン資料を工夫し「自分の言葉」で表現できている点に感銘を受けた。
- ・聞いている全校生徒たちも真剣な表情で視聴し、たいへん感心した。この発表会の価値や意義を感じた。

<委員>

- ・テーマや講座の内容が幅広く、生徒たちの自由な発想がうかがえる。
- ・全員にやる気（本気）が感じられ、発表中の声や態度が積極的で素晴らしい。全体的に発表慣れしていて、人前で話すことに長けているように感じた。

- ・聞いている生徒も真剣に聞いており、その態度に感心した。

<委員>

- ・浜松城公園へ実際に出向いてアンケートを取るといった、現場での行動力やリサーチの実行力に感心した。
- ・財務諸表分析やバーチャル投資などの専門知識の習得について、1、2年生の今後の学習に役立つ情報が含まれていた。
- ・特に「AI と睡眠」の発表は、これまでの発表の中で最も説得力があった。

<委員>

- ・現場主義で「現場に出て 50 名のリアルな声を集める」姿勢や、自分の目と耳で感じたことをまとめている点が素晴らしい。
- ・聴衆を参加させながら進める明るいプレゼンや、使う言葉の選び方など、質の高いプレゼンができていた。
- ・発表内容が具体的かつ現実的で、知識だけでなくマナーもしっかり身につけており、現場でも即戦力になりそうな安定感があった。
- ・商業高校（情報処理科）でプログラミングに本気で取り組む姿勢や新しい視点での研究に感心した。